

水害対策には 事前準備が大事!

線状降水帯

集中豪雨

積乱雲

大型台風

防水扉

防水シャッター

止水シート

止水板

水害から大切な財産、設備、建物を守る浸水防止用設備。急な増水による浸水被害を最小限におさえ、企業活動を速やかに再開するためにも災害に対する“備え”が必要です。

増加する集中豪雨による浸水被害に備える

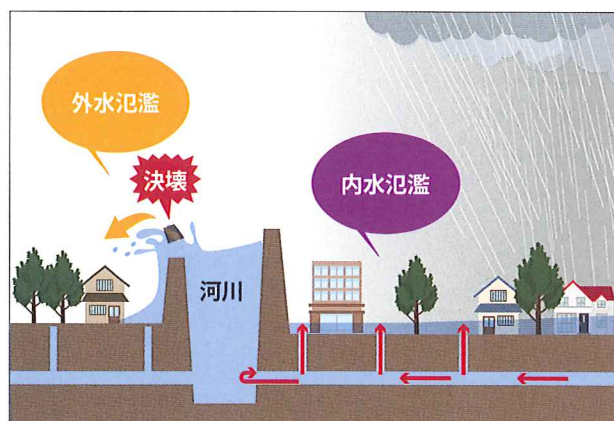
近年の気候変動等に伴って、**大雨やゲリラ豪雨に起因する浸水災害（内水氾濫）が増加傾向**にあり、建築物の開口部からの雨水流入や、**地下空間への雨水流入を防ぐ浸水防止用設備の重要性が高まっています**。雨水が建築物内や地下空間へ侵入すると、避難経路が制限されたり、電気設備の停止でライフラインも機能停止する恐れがあります。

身近な浸水対策では土のうが使われますが、調達や設置に手間が掛かり、速やかかつ確実な対応ができません。また、水防法では地下街などの所有者・管理者に対し避難経路確保を含めた浸水防止計画^{*}の作成を義務付けており、**設置場所に適した浸水防止用設備が求められていました**（水防法第十五条の二第一項、水防法施行規則第12条）。

^{*}浸水防止に係る計画を定めることで、効果的に浸水被害を軽減し、浸水防止用設備の整備は必要に応じて実施する。

洪水の種類について

洪水には大きく分けて「外水氾濫」と「内水氾濫」があります。



外水氾濫

堤防が決壊した場合等に起こる洪水のことを言います。市街地に高速の氾濫流が流入し、短時間で住宅等の浸水被害が起こります。

内水氾濫

市街地に降った雨が雨水処理能力を超えた場合や、排水先の河川の水位が高くて排水できない場合等に地表に溜まる、住宅等の浸水被害のことを言います。

近年、大雨や短時間強雨の発生数が増加傾向にあるため、内水氾濫の発生する可能性が高まっており、より一層の注意が必要です。

建具型の浸水防止用設備の例

種類	防水扉	防水シャッター	止水シート	止水板
写真				
操作方法	手動式 (非常時締付機構使用)	電動式 (非常時締付機構使用)	手動式 (組立)	手動式 (組立)
用途	機械室・設備室の出入口など	地下鉄・地下街の出入口など	工場・倉庫の出入口など	店舗・マンションの出入口など

202207

